



2025年8月28日

報道関係者各位

慶應義塾大学

国内初、インパクトを軸に機関投資家が研究開発型スタートアップとのイノベーション共創を学ぶ「慶應義塾イノベラボ」開講

慶應義塾大学（所在地：東京都港区、塾長：伊藤公平）は、2025年9月5日より、社会課題解決を価値創造につなげる考え方「インパクトマネジメント」を軸に、研究開発型スタートアップとのイノベーション共創について学ぶ「慶應義塾イノベラボ」を開講します。

本プログラムは、機関投資家等を主な対象に、研究成果の社会実装を担う研究開発型スタートアップと共にイノベーションを創り出す人材を育成する、国内初のプログラムです。初開催となる今回をパイロット版とし、今後はさらに対象を行政や事業会社、社会実装を目指す研究者、スタートアップへと広げ、イノベーション創出に関わる多様な主体への展開を目指します。

なお本プログラムは、慶應義塾大学の研究大学としてのビジョンである「未来のコモンセンスをつくる研究大学」の実現に向け、慶應義塾大学イノベーション推進本部が主催し、日本学術振興会「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択された取り組みの一環として実施されます。

1. 慶應義塾イノベラボ 概要

- (1) 期間：2025年9月5日（金）～11月13日（木）
- (2) 主な対象者：国内機関投資家等
- (3) 会場：オンライン、鶴岡サイエンスパーク（山形県鶴岡市）、慶應義塾大学三田キャンパス（東京都港区）
- (4) プログラム※ [] 内は予定講師：
 - ①キックオフ・セッション（9/5・オンライン）
 - 研究開発型スタートアップとインパクト投資をめぐる問題提起
[慶應義塾大学イノベーション推進本部、株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ]
 - インパクトマネジメント基礎
[Impact Frontiers 須藤奈応氏]
 - ②鶴岡セッション（9/26-27・鶴岡サイエンスパーク）
 - 地域イノベーション・エコシステム講義・視察
[鶴岡サイエンスパーク・慶應義塾大学先端生命科学研究所他]
 - インパクトマネジメント体験
[Impact Frontiers 須藤奈応氏、現地スタートアップ複数社の協力あり]
 - 鶴岡のイノベーション精神を学ぶ
[一般社団法人鶴岡サイエンスパーク代表理事・慶應義塾大学名誉教授 富田勝氏]
 - ③オンライン・セッション（10月・2～3回）
 - 研究開発型スタートアップ向けインパクト投資を行う海外VC等からのヒアリング
[英国 ImpactVC 等の登壇を予定※調整中]
 - 参加者間事例・課題感等の知見共有
 - ④東京セッション（11/13・三田キャンパス）
 - システム×デザイン思考ワークショップ
[慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科]

- 産学交流・情報交換会

(5) 補足：

- ・本プログラムは「慶應義塾イノベラボ」第0期として開催され、今後さらに多様な主体へと展開していくためのパイロットプログラムとして実施いたします。
- ・今回の第0期の参加募集は締め切っております。
今後の開催につきましては、慶應義塾大学イノベーション推進本部 HP をご確認ください。
<https://innov.keio.ac.jp/startup/>

2. プログラム実施の背景—研究開発型スタートアップとイノベーションを共創する

大学等発の科学的知見や技術シーズを事業化し、社会課題の解決を目指す「研究開発型スタートアップ」は、地球規模の課題解決に貢献する可能性を秘めています。しかし、一般的に事業化までの道のりは長く、長期的な視点に立ち、資金・人材・制度面で支援することが不可欠です。

そのような背景を踏まえ、本プログラムで中核的に取り扱うのが「インパクトマネジメント」です。インパクトマネジメントとは、投資や事業活動が社会や環境に及ぼす成果を意図的に計画し、測定し、改善し、意思決定に統合する手法を指します。

国際的には Global Impact Investing Network (GIIN) が普及を主導し、世界のインパクト投資家や金融機関にとって広く用いられるフレームワークとなっています。また、日本においても、金融庁が「インパクト投資（インパクトファイナンス）に関する基本的指針」を公表するなど、国内の投資家・金融機関の間に関心が集まりつつあります。

本イノベラボでは、この国際的なフレームワークを基盤に、日本の研究開発型スタートアップ支援を推進し、持続的なイノベーション・エコシステムの形成をめざします。

3. プログラム連携・協力について

- Impact Frontiers（米国）

インパクト投資を志す投資家がともに学び、インパクト投資市場を協働で形成していくことを目指し、北米・欧州・アジアなどにおいて、インパクト投資及びインパクトマネジメントの実践支援や研修事業、投資家ネットワークの形成等を行うイニシアティブです。イノベサロン及びラボには、アジア担当ディレクターであり株式会社慶應イノベーション・イニシアティブのアドバイザーも務める須藤奈応氏が中心となって協力しています。

- 一般社団法人鶴岡サイエンスパークと鶴岡タウンキャンパス（慶應義塾）

鶴岡サイエンスパークは、慶應義塾大学先端生命科学研究所の開設から始まり、山形県と鶴岡市による研究所への行政支援のもと、研究所の研究成果からスタートアップが10社生まれ、世界最先端のバイオテクノロジー研究開発拠点に成長しているエリアです。2021年には一般社団法人鶴岡サイエンスパークが設立され、内閣府より地域バイオコミュニティの認定を受け、ネットワーキングやスタートアップ支援に取り組んでいます。研究所を核とする鶴岡タウンキャンパスは、慶應義塾が先端研究教育拠点として、地域や企業と一体となって新しいイノベーションを生み出すために開設しており、人材育成と連携の拠点です。地方都市で展開している唯一のキャンパスです。

- 株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ

「その研究が、その発明が、そのイノベーションが、社会を変えるまで。」をミッションに掲げ、大学の成果を活用して革新的な新事業を創造するスタートアップに投資する慶應義塾大学オフィシャルベンチャーキャピタルです。大学VCとして初のインパクトファンドを含め、総額350億円を運用しています。イノベサロン及びラボには、研究開発型スタートアップ向けインパクトマネジメントの事例共有等の面で協力しています。

5. 慶應義塾大学イノベーション推進本部について

慶應義塾大学イノベーション推進本部は、教育・研究成果の社会実装を通じて、社会課題の解決とイノベーション創出による社会貢献を推進しています。その実現に向け、持続的に社会へ影響を与えるイノベーション・エコシステムの活性化とスタートアップ・エコシステムの形成を目指し、研究成果の事業化支援、知的財産の権利化、産学連携、スタートアップの創出・成長支援など、多様な活動を学内外のステークホルダーと連携して進めています。

2025年4月からは「慶應義塾イノベサロン」を継続的に開催し、これまでに延べ332名が参加しました。本サロンは「半学半教」の精神のもと、先行事例の紹介や実践者による対談を通じ、「社会課題×新技術×持続可能なビジネスモデル」の交差点におけるインパクトの可能性を探る場として開催されました。この取り組みにより、金融機関・投資家をはじめ、研究開発型スタートアップを取り巻く多様なステークホルダーとの対話の場が形成され、そこで得られた知見とネットワークを基盤として、「慶應義塾イノベラボ」は座学と実践を融合させたプログラムとして企画されました。

URL : <https://innov.keio.ac.jp/>

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学記者会、各社社会部・教育部・文化部等に送信させていただいております。

・内容についてのお問い合わせ先

慶應義塾大学 イノベーション推進本部

慶應義塾イノベラボ担当：渡邊直之

広報担当：大司奈緒

TEL：（大司携帯）080-2722-9668 E-mail：innov-pr-group@keio.jp

・本リリースの配信元

慶應義塾広報室 担当；道祖土（さいど）

TEL：03-5427-1541 FAX：03-5441-7640

E-mail：m-pr@adst.keio.ac.jp <https://www.keio.ac.jp/>